

国債が貨幣と袂を別つ時

齊藤 誠

〈要旨〉

本論文では，中央銀行による国債管理政策について，貨幣と国債の代替性が高まり，国債を中央銀行債務に置き換える政策と狭く定義する．日本銀行が19世紀末以降に狭義の国債管理政策を展開したのは，①1937年から1945年までの戦時経済期と，②1995年以降の超低金利環境においてであった．本稿では，②における国債管理政策がどのような終息を迎えるのかを，①の国債管理政策が破綻した1940年代後半の経験を踏まえて考察する．特に，国債管理政策の終焉に伴う物価水準や名目金利の混乱は，財政再建へのコミットメントを含めて適切に対応すれば，一時的な水準訂正にとどまることを明らかにする．

(名古屋大学)